

全産業 DI 値は悪化を示すも、 製造業は前回から更に改善

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

平成28年1月～3月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率72%

【主要な表現について】○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲28.2で前回(H27年10月～12月)より6.2ポイント悪化。今回は製造業以外で悪化となった一方、前回に続き製造業が17.4ポイントの大幅な改善となりました。経営上の問題として建設業では官公需要の低下や請負単価の低下。製造業では生産設備の不足・老朽化。卸売業、小売業、サービス業では需要の停滞があげられました。

全産業売上高の動向(表2)：前回(H27年10月～12月)より1.6ポイント悪化しました。

全産業資金繰りの動向(表3)：前回(H27年10月～12月)より0.6ポイント悪化しました。

全産業採算の動向(表4)：前回(H27年10月～12月)より2.8ポイント改善。4期連続の改善となりました。

全産業雇用人員の動向(表5)：前回(H27年10月～12月)のDI値から1.5ポイント改善しました。

